



平成28年度東北地区サイエンスコミュニティ

平成28年度東北地区サイエンスコミュニティは平成29年1月27日〜28日に福島県福島市で行われ、SSH指定校や経験校、理数系強化校の16校（青森県立弘前高等学校、青森県立八戸高等学校、秋田県立秋田大館鳳鳴高等学校、秋田県立秋田中央高等学校、秋田県立秋田北鷹高等学校、岩手県立盛岡第三高等学校、岩手県立水沢高等学校、岩手県立釜石高等学校、山形県立米沢興讓館高等学校、山形県立鶴岡南高等学校、宮城県仙台第一高等学校、宮城県第三高等学校、宮城県古川黎明中学校・高等学校、福島県立会津学鳳高等学校、福島県立磐城高等学校、福島県立福島高等学校）が参加した。本校からは12月に行われたSSH中間発表会において優秀と認められた3つのグループ（火災旋風班、透明骨格標本班、ウコギ班）の計12名が参加した。

1日目には口頭発表が行われ、火災旋風班が発表を行った。2日目にポスター発表が行われ、透明骨格標本班とウコギ班がそれぞれ発表を行った。日頃のSSHで行ってきた研究成果を校外で発表する貴重な機会に、生徒たちは緊張しながらも堂々と発表できていた。その様子を参加した3グループそれぞれの言葉で振り返る。

「刺激を受けた東北サイエンスコミュニティ」
（2年理科男子）

私たちは1月27日・28日に行われた東北地区サイエンスコミュニティに参加しました。興讓館からは、私たち透明骨格標本班と火災旋風班、ウコギ班が参加しました。1日目には口頭発表が行われました。東北地区にはレベルの高い研究が多くあり、研究に対する姿勢を真似したいところがありました。各級の発表には審査員の先生方による鋭い質問がありました。厳しいお言葉が来たりしてました。私たちは、大きな期待を受けていて、その期待に応えたいと思っていました。私たちの班も発表しました。2日目はポスター発表があり、私たちが発表しました。本番は緊張しましたが、しっかりと発表できました。しかし、話を聞いてもらうには人を引き付けるような声や話し方、アイコンタクトが必要だと感じました。この経験を通して、私たちの研究がより良くなるように頑張っていきたいです。



「批判的思考力を身に着ける」
（2年理科女子）

私たちウコギ班は、先日行われた『東北地区サイエンスコミュニティ』に参加させていただきました。そこで、周りの批判的思考力の高さに驚きました。何故このような方法を用いたのか、この結果に辿り着いたのか、他に可能性は無いのか、を常に考えながら聞いていくことが、発表後の質問の多さに表れていました。質問が来ると、自分の研究に興味を持っていくと感ずることができると、自分たちでは気が付かなかった新たな視点を与えてくれるし、自分たちでは気が付かなかった新たな視点を持てると、研究テーマを見つめなおすことができます。また、こういった思考を持つということ、将来を切り開くために必要な力を身に着けるということです。今回周りのレベルの高さを知り、自分たちの未熟さを痛感しました。この経験を糧とし、自分たちの研究をさらに発展させるとともに、私たち自身も成長していきたいです。



「Fire Whirlwind」
（2年理科女子）

私たち火災旋風班は、福島市で開催された東北地区サイエンスコミュニティの口頭発表に参加してきました。発表自体はこれまでも何度かやってきましたが、いざステージに立つと、多くの観客の真剣な眼差しをみて、とても緊張しました。発表は割と良くできたと思いましたが、スライドの中身、特にグラフの見せ方など、他の班と比べても課題が残りました。口頭発表のあとに交流会があったので、大学の教授とお話ができました。お褒めの言葉や新たな着眼点をご指摘いただき、とてもためになりました。今後の研究に活かしていきたいと思っています。次の日の閉会行事では結果発表がありました。私たちは優秀賞をとることができました。どのチームも素晴らしい発表で、私たちが賞をとれるとは思っていませんでした。私たちが優秀賞をとるという反面、最優秀賞をとれずに悔しい気持ちもあります。今後も研究を続け、火災旋風を極めていきたいです。

結果
口頭発表
優秀賞
「火災旋風の発生条件」

ポスター発表
奨励賞
「透明骨格標本の作成技法の検討」

グジョブ賞
「ウコギが運動量に及ぼす影響」

3テーマとも受賞！

